



細かな手作業によるダメージの指示が記されたサンプルたち。



この秋冬リリースされるジーンズのサンプルがアトリエに揃っていた。



いかにもダウンタウンらしい歴史カルな建物の中にアトリエはある。



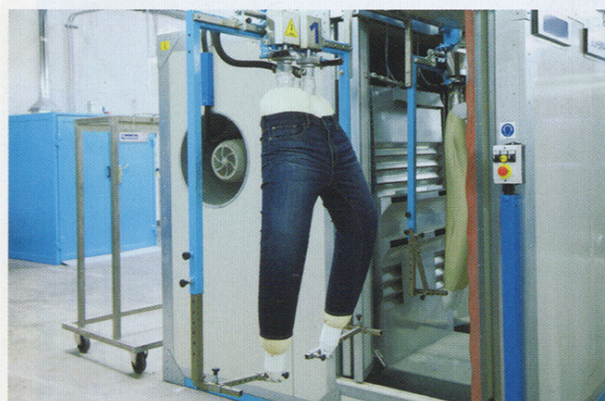
LAという場所柄、デニムの扱いに精通した、アトリエで働く職人たち。



ベッカが'90年代の資料を参考に、来年の春夏をイメージしていた。



ベッカはユニクロ ユーのジーンズ担当。ルメル氏が信頼するひとり。



これが3Dマシン。熱風によりジーンズが立体化していく。



日本の生地メーカー、カイハラのセルビッジデニムを使用したシリーズ。



ユニクロのジーンズ部門のディレクターの松原さんは、Jブランドも兼任。



環境に細心の注意をはらったランドリーステム。



地球に優しく繰り返し使えゴミが出ないウォッシュ用の人工ストーン。



ここで開発されたジーンズは、中国の工場などで大量生産されていく。



右上/これが秘密基地、イノベーションセンターへの入り口。左上/その中では、レーザーを当てるとヒゲやアタリなどのベースが出来上がる、夢のようなマシンが！ 右下・左下/いくら技術が進化しても、人の手に勝るものはない。

ユニクロのジーンズが生まれる場所。

UNIQLO JEANS INNOVATION CENTER at LA

いわゆるイージードデニムとかジョグジーンズとか呼ばれている。見た目はジーンズなんだけど、穿き心地はスウェットっていう。あれがどうも苦手な人。そんなことを、今回のユニクロのLA取材の前にPRの方と話していたら、「騙されたと思って試してみたいから、うちのEZYシリーズを」と言われ、さっそく騙されたと思い、銀座のお店に買ってきた。僕は長時間の飛行機では、離陸後、こっそりトイレでスウェットに着替えていたのだが、このEZYを穿いてみたら、今までのそんなセコい苦労が何だったかと思う。だって見た目は本当にいい感じの色落ちしたジーンズなのに、穿き心地は完璧にスウェット。こんないいもの世の中にあつたのね、という驚き。モノは試してみないとわからないというわけだ。そしてユニクロが満を持してロサンゼルスに開設したジーンズの研究所、「ジーンズイノベーションセンター」を取材するにあたり、僕はもう一本、ユニクロのジーンズを購入。LAの滞在中、ずっと穿いてみることにした。選んだのは、最もベーシックなレギュラーフィットのノンウォッシュ。ストレートというカテゴリだけど、程よくテーパードされた綺麗なシルエットで、カイハラの13・5オンスのデニムを使っただけで、程よく3990円の手に入る。ただ、安くて格好悪いものは欲しくないし、ジーンズとして機能しないものは買う価値はないと思う。だから値段なんて、この際どうでもよくて、ユニクロがどれくらい本気でジーンズを作っているのかを自分の目で、体で確かめてみたいというわけ。もちろんいいジーンズを作っていて、かつ安ければ言うことなし。

LAにおけるユニクロのジーンズの拠点は2か所ある。ひとつはサンプル製作を行うダウンタウンのアトリエ、そしてそこから南下した場所にある「ジーンズイノベーションセンター」だ。まず訪れたアトリエでは、間違いない世界でもトップクラスであるカイハラが生地の、職人の手によりカットされ、ミシンを使って縫い合わされた。ファーストリテイリンググループブランドのジーンズ開発の拠点でもある為、その膨大なスタッフと職人の多さは、ここがサンプルを製作するアトリエではなく、商品を生産するファクトリーと勘違いしてもおかしくない。多くの職人がユニクロ各部門のディレクターから送られてきた指示書をもとに作業を行う。パリのクリストフ・ルメル氏率いるユニクロユー、今秋スタートするJW ANDERSONとNとのコラボレーションのジーンズサンプルもこのダウンタウンで製作される。そうやって作られた様々なデザインなどの加工を試していくのが次に向かった「イノベーションセンター」の役割。その場所はまさに秘密基地と呼びたくなるひっそりとした街外れの倉庫街のような場所にある。鉄の扉を開け一歩足を踏み入れると、ジーンズ作りに関わる者が見れば夢のようだと、言わずにいられない。すべてが揃った空間が広がる。最新のテクノロジーを搭載したレーザーマシンがあるかと思えば、デニムに立体感を与える3Dマシン、ナノバブルをスプレーするマシンなどが整然と並べられている。そして特筆すべきは最新鋭のマシンのもと、ディレクターの松原正明さんを中心に、ジーンズのスペシャリストが集結したことだ。丁寧な手作業による細かな造形が得意な日本人、イタリア人でデニムの加工を知り尽くした薬剤のプロ、LAならではのナチュラルな仕上げを習得したアメリカ人、そういった各国混合チームによるプロフェッショナルたちが最高の一本のために、研究と開発に没頭出来る場所。それが「ジーンズイノベーションセンター」だった。

LAの取材でわかったこと。それは間違いない。ユニクロはジーンズに本気を出し始めたという。それは単に最新鋭のマシンや設備を揃えたことだけではなく、そこで働くプロたちの活気やいい表情から伝わってくるものがある。ところで、LA出張中、1週間穿き続けたジーンズは、1週間前とちっとも変わらない。つまり十分にタフでいい作りだ。ジーンズと聞くと、ただジーンズの真価など1週間ではわかる筈がない。最低でも1年穿いてみないと、どんなにいい顔になっていたか、それがすべてだ。LAを拠点にしたユニクロのジーンズがどう進化していくか、すべては始まったばかりで、その答えが出るのは、この先、穿き込んでいったジーンズが証明してくれる筈だ。